



俳諧小槌大成



自叙

以能借四時之功，行于世之書。
免採而或繁，或約備急而
不使先師豐蒲丈拖風雅久矣。
後朝群藉考之式，不雜私別。
門分部便同生而未為折衷。

托造於糸而逝可撼焉遂擇
衆從以經見合其危陞備
踰無道灑小為初学指持足
彌迷云昔明呆庚寅十一月
甲子

麻時秋可畫後

叙二

能諧小樾大成目錄

一 歲且之部

門部を混雜して歳且小用ゆるを此部不出す

一 乾坤門

天地の間に祠於る神祇植物を氣祇衣
食公事・故事等の部を洩るるハ悉
く此門小属す

一 植物之部

一 生類之部

一 衣食之部

右門部毎小三ヶ月小法より六ヶ月と改て知
らしむ美先聖宗子席の事い何る相
下小是と記とる席の宗近小改て
申於る一

一 神釋門

一 公事故事門

一 雜之詞の部

重小用いさる詞をさ語あり美く
初心のまといをゆく

一 時令異名之部

一 懷紙之句法

一 句教去嫌之法

一 切字之事

一 三世の一事

- 一 早ぬふれぬ之事
- 一 切字小何くさるてふは之事
- 一 文其室之寸法
- 一 御座初め引
- 一 襷造流行衣風之結
- 一 色紙短冊之寸法

正月 ○歳旦之部

元旦	元旦	初春	新年
元旦の巻	明の巻	今日此巻	宿の巻
四方の巻	子代の巻	花の巻	若り巻
次代の巻	わら玉	何玉の巻	角の巻
秘室	日の巻	三の巻	三の巻
舞の巻	とく立	舞立ぬ家	初とく
新に舞	若に舞	明の巻	よひの巻
年の花	初夜	その日	初日記

春

初髪 初曆 曆あつた 年男

若あ 若あ挿 掛花挿 包あ巾

掛花あ 大かさあ 泡連飾 かさあ縄

飾あ 袋あ 庭あ 年仕

袋あ 門の神柳 若あ子 門松

立松 雲飾 かさあ竹 かさあ炭

ゆぼりあ 親子茶 上 齒乃木 裏あ白

穂長日 山草日 掛あ 星あ佛

いねあつむ いねあくあ けあ隙 年あ玉

年礼 福藁茶 元日州日 毬あ

袖ぎあ ぶあく 玉あ 羽子あ板

胡あ忍あの子 こあぎあ板 やあまあご ああ紐あつく

破あ十あ弓 えあまあ矢 ああ基あ万あ茶 あああ

妻あ酌 鶴あ遠 大あ黒あ藁 ああ熱あ文

笛あ固 鏡あ餅 色あらあ鏡 展あ藁

薺あ菜 喰あ積 串あ柳あかある いせあ海あ老あ飾

橙あかある 梅あ不あかある 時あ老あかある 栞あ子あかあるあ

橘あかある いらあ染あ飾 かあやあ飾 穂あ俵

松栢 俵子 田代くらり 水成系

辛堀さき 糠籾 新穀 後稻

めんせねん 茅野いふ 心どいふが 米を年成

あらしき 大根いふ 糠の相 老若

大娘く 柳結 和籾 弓はしめ

船乗初 きそとらめ る系初 玉あそめ

年とら老 吉朱日 朱初日 年成日

成籾日 成亮 寅引 福引 三ヶ日

二

うとひ始 藤初 藤らしき 湯及はしめ

船乗 夕暮 裏白を寄 三ッおき寄

三ッおき寄 松の門 正業且用初あり但門初混難

○ 乾坤門

むつさ 初暮月 初空月 いまひ月

右高月 歳そめ月 松籾子 ありねひ

ありあびせ 奉籾 奉本 歳且の老

こぞ ことし ふふ奉 喜氣

初芝松 店おろし 帳とら 帳矢

初志 賣初 買初 ぬごちろ

初子の日 子の日の世 六日年哉 七日正月

人日 日上 湯まきあ十日 十日日正哉 上元 十五日

引連の州 綱製 左義長 十五日 爆作日

吉身と家日 かの木日 粥林日 かの粒日

やぬ入十六日 廿日正月 齋正月日 傀儡師

結氷 氷解 氷あぐり 氷のひは

凍解 凍久し 凍久し 余る

まよこ 結雪 雪解 雪月

雪解あ 雪まゆ心 雪解 雪あぐり

名抄の雪 まよ雪 雪雨 雪風

△山矢 △永ま日 △鏡ま日 △佐保娘

△霞 △八重霞 △一霞 △霞れ海

△鏡らすむ △鏡月 △鏡鏡 △糸柱

△陽を △長梁 △繫 △暖

△おぬるむ △木柱のぬぬち △鏡まき 柳ら枝ぬふ

△青柳ぬふ △まき雪 雪の洞 △まきの文

△まよまよ △まよまよぬ △まよまよぬ 立まよの節

雨水の節

○枝物之部

并枝物小媛小お

あま菜

七種

黄蒿日

藜菜日

あま日

珍菜

酒代日

仏の菜

芥日

根白菜

子比目の菜

小松引

刺子のあま

あま菜

下あま

あま菜

あま菜梅

いそあま梅

あま菜梅

よめあ

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

古くさ

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

梅

白梅

野心菜

けあま

やま梅

梅こよみ

白ひ菜日

あま菜

松乃花

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

あま菜

△柳髪 △早柳 △花乙柳 △乙飯柳

△椿 △白玉椿 △伴房椿 △つづく椿

△飛入椿 △山椒の皮 △湖を割 △康尾

△若知布 △蓑 △川ちと △淡ちと

△三つふせう △葎 蕪 △防風 △独活

△山葵 △馬 袴 △黒くいの △新菜つむ

○生類之部 生れおし類の部

△大鯨おし 十日 白魚 △魚とあつ 月令 魚水より

後の意 磯の意 魚水より

△百千鳥 △雲 △白ひ鳥 △雲笛

△徑よむ鳥 △余衣鳥 △吟又難正 △水鳥鶴

△鳥さへつゝ △豹しり △鷹鳥 △琴了

△雲雀 △むむり笛 △鷗 △鷗

△蛭 △初 雛

○衣食之部

△糸 餅 後より 鏡用き 小豆餅

△異豆鏡より 二上白だんご 葱 炙 糸振舞

△木芽漬 子ぬ日衣 梅の花衣 帯衣

柳のまき まきの 霧の巻下 まきの △餅贈 まきの △まの饅 まきの

△砂蛤 △干鰯 △目さし △海苔

△まのり △海士のり △おごのり △加田のり

△浅茅のり △樺のり

○神釋門

紙雲のり掛 紙雲のり掛 糸船舟玉糸 二日 天狗さうり日 袖さうり糸

菜搦川 菜搦川 七日 箕の富七言 居おろ 九日 十日 塙子文坂

老藤 老藤 十日 若おろし言 酒子おろし 十日 祝即糸後者

平岡の粥 平岡の粥 十音 係糸 日 花のれ切 十音 厄神糸 十九日 十八日

藤氏お米日 藤氏お米日 ソく徳糸 ソく徳糸 吉田法被 十九日 精を供 十音 廿日

浄忌 廿二日 浄忌 糸ぬ 廿二日

○公事下故事門

四方拜 元日早と唱 四方拜 日 とうの時 夫子具子一の屬星 とうの時

糸子 元日白散 糸子 日 度瘰散 度瘰散 日 清茶を供 日

おろし一散 おろし一散 二散 二散 白散 白散 三散 三散 夜瘰散 夜瘰散 日 初賀 元日

初ね 日 奏賀 奏賀 日 小初ね 小初ね 日 いろね いろね 日

元日節會 七曜 七曜 日 日月史 日月史 日 七曜 七曜 日

氷のたけ 氷のたけ 日 氷 氷 日 後赤 後赤 日 初賀 初賀 日

團栞奏 五日 玉栞留 日 玉栞の置入留と吹きさあす会に

院の拜礼香 院の所すおね 乳あつるゆかり 日 思海のくど経 日 入く成物といの

糝 七日 天子のあつるのあて 天子のあつるゆかり 二文の大答 二日 中々のあつるゆかり

栞観 二日 天子の上のまゝ 仍香のあつるゆかり 日 原時 二日 冥白あつるゆかり

叙位 五日 法長の位と叙する 白のあつるゆかり 七日 白のあつるゆかり

流石の奏 日 流石の奏 八日 大極成りて七日 女極成りて七日 女極成りて七日 女極成りて七日

流石の奏 日 流石の奏 八日 大極成りて七日 女極成りて七日 女極成りて七日 女極成りて七日

女王緑 八日 女王緑をまゝ 緑白 十一日 法長の下友とて

おどろき 十日 田端 女たらし 十六日 女たらし 一の御

男女のあつるゆかり 叙 十八日 百貴とくく叙を 叙 卯枝 上卯

卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日

卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日

卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日

卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日

卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日

卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日

卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日

卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日

卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日

卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日

卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日

卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日 卯枝 日

靈辰 八日 人と此に結入日 事久に聚 亥餘つる日

天雲 日 亥餘つる日 亥の係心月廿日 亥の系より 亥餘つる日 亥の係心月廿日 亥の系より

二月 ○ 乾坤門

きざくた 杓見月 小葉生月 杓花月

杓和節 一日 二日 亥 杓雷 虫出雷

細いふり 風中 紙考 二の勢

新能 七日 芝能 日 貝よせの風 出代

雪の別 中のもそ 驚驚系 長分節

○ 物之部

紅梅 八葉梅 越中梅 さくら梅

幼さくら 冬梅 姥さくら 一葉梅

玉りん梅 熊石梅 四さくら 初花

花を梅 梅木 つぎ梅 黄梅

銀杏の花 以んこの花 粉松 うこぎ

苗代 苗代葉 種井 種豆

種蒔 種ぬせる 葉の根垣 盆ま

麻ま 苺糸 蕨 子ま

ゆきま 紫糸 日 物考 蕨

藪くさ	萩菜	麩杖	さらつて飯
蕪	蕪	胡椒葱	物蕪
こまぎ括	蕪の花	菜の花	大こんの花
薬料	まうりし	田を焼	畑やく
畦を焼	山をやく	芝やく	焼畦
焼野の苺	とろろの苺	萩の焼糸	芦の角
角組む芦	芦の籾	芦の芽	草芳しき
菜のみえ	つこのみえ	萩のみえ	萩のみえ
菊のみえ	とろのふね	菜苗	

○生類之部 五日婦の物

藪	つむめの菓	かよよ	藪
をこ	取	四合	厂の名跡
厂乃別	山乃別	引鴨	尾の勢
佐保娘勢	白虎の勢	知勢	ましくま
急	とまり山	ゆり将	鈴こき
松	雀の子	すめ	すめ
織子	さ	の菓	の菓
麻	麻の角	惚穴を	惚出

培虫出子

蝶

てんく

蝶

鳳蝶

蝶

蝶

蝶の菜

蛙

蛙の子

蛙

蛙

雨久系

田螺

螺

寄居虫

るが

とろこ

飯塚

繻の子版

驚化して旭とある 月令

○衣人食之部

燕 蘇

治 蘇 何

饅頭 羹

○神 親 門

初午 いちう

水回系

初午

お姑系

日

東後系

吉野系

一日

八日初卯系

二月廿日

十日

水

五日系

上申 大系

上卯

摩耶系

初午

初系

名系

十日

送系

十五日

批系

日

上

係

仏の初

日

さうー仏

日

二月の初

考系

真係

柱系

さ

穢系

十六日

比系

を

八係

日

踊系

日

水

聖系

廿二日

田系

日

園系

上

水

小系

廿五日

菜系

日

乃系

日

三月

○公事放事門

初年糸目

法林に事を奉じ

張忍

土日 大改定より

季の強強

中よりして入殿あり

社日

わらわらして入殿あり

社務の雨

社日よいかるは

生子と献ス一日

わらわらして入殿あり

釈奠

土日

おきこほり日

ふまゑと孔子奉十哲をまつこと

三月

○乾坤門

やよい

花見月

梅月

春情月

上巳

言 桃花の節日

桃の節日

雛

おいふ糸日

雛花び日

雛飾日

雛日

紙雛日

三日の海

改下日

土佐の海祝日

八十八歌

志をあら

別をね

名物のをね

炉敷とく

火越ふとく

田が裏塞

令法

海蘭陀後

やよいいふ

夏と待

まよふかき

まどろむつふまの取

まの別

まぬらき

まなくきて

まま

行ま

まのまゆ

まをこて

まの隣

竹の秋

まをこて

夏と隣

三月日

虹初てる日

日令

清明節

穀雨の音

○植物之部 花日婦人切

花盛 花曇 花の雲 花の綿

花れ香 花の浪 花の香 花冠

花衣 花のうろ 花の都 落花

△花の親 △襖の親 △襖の親 △襖の親 △襖の親 △襖の親

△花 桜 山さくら 花さくら

家さくら 八重桜 桜 朱桜

手お桜 人丸さくら 西行桜 いせさくら

江戸桜 蓮さくら 満さくら 花梅子

満さくら 相うき 塩竈桜 ぬぐん象

名海桜 左ふ府君 能さくら 楊貴妃

虎尾桜 清美桜 さくらづき さくら戸

さくら白 桜人 夏見草 わくみ草

曙草 かさ草 春聖草 大桜

桜棠 桜心さくら 李 李の花

杏子の花 林檎の花 桜松の桜 梨の花

ふかしの花 朝のつばき 女の海草 朝の花

加藤花 小桜の花 庭桜 石菖花

揚柳の花	砂礫木の花	木尻の花	木梨
木薔花	楸の花	辛夷	志てこぬ
長春	沈丁花	玉帯花	枕の花
けしき花	娘くく	緋楸	原平桃
三子代州	みさこ州	躑躅	白はく
娘つ	羊躑躅	岩はく	蓮華つ
芳徳はく	山はく	園はく	藤
菘りはく	菘の柳	菘薔	さぐり菘
ふら治	白菘	菘根	菘こぬ

迎菜の花	小糸花	小糸穂	款冬
遊翹	蘊枋の花	やうらひ菊	冬菊
春菊	仙香萩	玄菜花	金鳳花
さう草	九輪中	日七重中	丁子中
化徐菜	毒蔓州	金珠花	母子州
る蘭	莖	つす	薔
青刺薔	眉つ	五	芽花
菊柱	葉耳	葉荷竹	柔つ
新葉つ	檜の花	あ	抄の

二月菜

三月大こん

梅と菜

菜梅 又と花

紫柳

日上

岸初と生 日全

○生類之部 日全

日全

鶺鴒

二日

蛤小ト子

さくら組

さくら組

梅鉢

さくら貝

柳穂

柳の菜魚

小鮎

あめゆ

あゆぬ

蚕

菜子 日

鶺鴒の巢

郭公の巢

鶺鴒の巢

わいふ

むくさき

まうらう

鶺鴒の巢

喉子香

雲ノ入香

香飯子

鶺鴒の巢

十四

上巳梁

田胤化して鶺鴒と申す日全

○夜食之部

枕の酒 日

菜乃餅 日

葎とら 日

菜の餅 日

母子餅 日

山吹衣

うら山吹

はくし衣

さくら衣

梅の衣

○神歌門

しの日れ後 三日

次广の後 日

経行菜 二日

石山菜 二日

桑畑菜 日

一ふふ菜 五日

菜師と定務菜 七日

南菜 中ノ午

稻荷の山出 日

泉涌と山出 八日

水尾菜 九日

やとらひ心 日

高尾の御祭 十日 吉野會 廿日 徳藏院 十三日 長守志 十四日

比良集 十八日 一切經會 十八日 土生志 廿日 柳野集 廿八日

炭原大志 廿日 新學會 廿日 文太志 廿日 寺中人丸集 十八日

儀若集 廿日 佛身拭 廿九日 法彩供 廿一日 高尾女詣 廿一日

順の集入 松尾の御出

○公事故事門

徳福集 神祇友として 曲水の宴 盃を流す

巴字集 羽觴と飛を 曲水の宴 は講あり盃とて 盃を流す

ありうと上巳の日 男子時 三時 くらゐ合 むらゝ女子折火よりいへ 鞆靴の御出

守仙のたよむれ むらゝ女子折火よりいへ 子と集りていへ

四月

○乾坤門

卯月 卯花月 花結り月 ところら月

故庄御被 丈丈被 柳天 和清天

卯の花を 松野後王 燈取 的あき取

△扇 △團 △編笠 △日傘

△汗 △汗ぬぐい △蚊帳 △ぬの子テ

立夏の節 小波の節

○植物之類 五月

牡丹 二十日州日名とり茶日花玉日

ぬりて州日 富士茶日 若菜 さびとと茶日

若菜 茶せん茶日 麦の秋 麦薊

杜若 累よ花日 ういつとと日 花の君日

ふらこの花 天葵 覆盆子 地莓

本いちご 菜いちご あしのは 薺

二葉茶 小あゆみ 草あゆみ 蜀葵

蕎麦 麦人巾 豆ごま 一八

風車 宝纒巾 若薺 蕙

坐らん ねどり茶 麦つひ新 羊蹄の花

鴨豆茶 ぶさ萩の花 菫の花 菜心と茶

荻原の花 子日紅 うみ不草 去の糸

玉まき草 玉色芭蕉 筆 篠の子

荻叶薺 牛棘 蓮の落葉 綿まき

茅植伝 萩植伝 余花 若木の花

若しれ花 若茶 木下園 新樹

夏本立 ことくさ草 若楓 若茶れ花

さくさく草 卯の花 楊梅の花日 若りて卯木

箱根うらぎ 厚朴の花 桐の花 檜の花

橘 一 ところ花 日 柑子の花

蜜柑の花 九年母の花 だいこの花 金柑の花

雲列橘の花 根敷の花 花柚 檜根の花

手まこの花 茨の花 岩さー 岩花

白根花 葉の花 萩つるさ 考録本花

まげん山 まげん木 まげん草 しまん木

△山葱 △る園葱 △茗茶 △茶

△葱 △利根草 日 △茶 △根草

△花松 △みまぬさ △茶 △まんさ

○生類之類 毎日場一の

郭公 ぶやうくま守 四ふれ田長 日 くまう 日

不ぬぬ 鷹のとや入 鷹 行く子

うー系雀 日 よー切 日 切んこ香 花壇

蚕めさる 枝の桂 協の子 かごめの子

初鰯 川不釣 麻の袋角 △茶

△つもと △茶 △茶 △茶

△こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀

△こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀

△こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀

△こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀

△こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀

△こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀

△こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀

○衣食之部

△こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀 △こ堀

生糸 風呂の茶 新茶 又去皮 古糸 日

△茶と湯 △こ茶酒 △こ麦の粉 △こ新麦

△こ櫛 △こ玉や一汁 △こ茶冷一 △こ干籠

△こ干籠 △こ塩馬織 △こ蟹乾 △こ洗い籠

△こ乾 △こ飯と一 △こすくぬ乾 △こ新と一

△こ布 △こ木布 △こさし布 △こ茶丸

△こ茶丸織 △こ卯の花衣 掃衣

○神衣

つくま糸 日 住吉卯糸 卯いあり糸 日 大糸 日 三輪 日

八坂系上ノ辰 山科系上ノ辰 多賀系日 堅田系日

平野系上ノ神 杜下系日 松尾系上ノ酉 乃木系上ノ申

當宗系上ノ酉 河内系日 大津系上ノ亥 山崎日日

石原系上ノ酉 廣瀬系日 新田系日 山崎系日

八中系中ノ卯 地之系日 日光系十七日 和系日

久世系中ノ巳 菱系中ノ午 山王系中ノ申 日吉系日

園系中ノ申 葵系中ノ酉 成系日 葵系日

とろろ系上ノ日 葵車日 中山系日 深根系日

吉田系中ノ子 安系日 神系日 三枝系日

向の神系中ノ辰 神系日 林系日 林系日

忌竹系日 灌佛日 佛生会日 新花会日

仏の煮湯日 五香水日 浴佛日 躰日

夏入日 花橋日 戒壇日 神日

古塔系十八日 千宗子十六日 花供廿一日 一日

△夏断 △夏断 △夏断 △夏断

△夏花 △安住

○公事故 夕門

青系 下系 孟夏の旬

之羽と揚ふ日

扇の深

日 日 日 下 扇

関白加茂清中

五月の乾坤之節

さつと

早苗月

月見ぬ月

たちを月

瑞午

又日

懺

日

菖蒲刀

菖蒲湯日

紫の湯日

飾かぶと日

新掛の甲日

茶の日日

神あ日

平地打

まま生

さうら雨日

入梅

徴雨

梅の雨

天辰交日

さざんれ

船趕風

まろ

又月日

芒種の節

夏至節

○植物之部

又日 揚ふ

あやめ草音

あやめ引日

あやめり日

永三根日

蓬ふく日

棟ぬく日

棟の帆日

茶茶刈日

茶州つむ日

競強日

百草花日

蓬刈日

六日菖蒲

竹抽日

竹碑日

今年竹

若竹

携の花

せんたんの花日

雲見日

柿の花

石梅の花

合歡の花

梅の花

さくらつじ

あまの花

未央柳

喜梅

小梅

杏子

梨

楊梅

枇杷 生枇杷 葉の裏 青柚

下種の花 栗の花 早苗 若苗

玉苗 ささりとろふ 田植 田うこ

早乙女 天南星 さるとりの花 忍冬の花

まろくれ花 さんざん花 撫子 川原あざこ

やまどろこ ちりあざこ 常盤 石竹

百合 娘ゆき 鬼ゆき 鴨あゆき

かのこゆき 車百合 さゆき 紫陽花

四つうの花 夏菊 鈴菊 薔薇の花

紅の花 こんつむぎ 磯積茶の花 びんがし

萱茶の花 ことまき 秩線花 鈴積茶

故や約州 石菖 玄菖 花うつぎ

花あやめ 花さくら さらうめ 藻と川

毛くろね 藻の花 萍の花 菱の花

川霧 繁まく 根まく 稗まく

桐六まく そと豆引 蜜豆引 地麻子

茶石蟹 半夏草 瓜の花 液瓜

子瓜 莖瓜 胡瓜 茄子

早松茸 わらわ外

○生類之部 五月嬉ふ相

蟬 初せこ あひ 鶉 あひ 水鳥の巣

浮粟 鴨の子 あひ 鴨の子 あひ 羽ぬけ鳥

五鴨 あひ 毛を四つ奪 あひ 徳を毛を四つ奪 あひ 鶯を奪と入

麻の子 移し持 あひ 黙うつ あひ 照射 あひ

火刺 やふ奴 あひ 小懸 あひ 移る あひ

蠻子 蟻 あひ 地衣ぬぐ あひ

○衣食之部

粽 かざりと粽 笹粽 芦らきん

こも 菰らきん さう飯酒 さう飯信衣 葛蒲のこい

帷子 过り花 あひ 羅 あひ

○神祇門

松本系 一日 加茂豆杉 日 加茂けいむ あひ 菟森系 日

岡系 日 生玉流 あひ 宇治系 八日 空王系 あひ 十二日

今之系 あひ 取社系 あひ 乃世の日 あひ 佐方河田 あひ 六日

河田系 あひ 大系志 あひ きとん神輿 あひ 富士垢離

○公事故事門

献^{あやめの}菖蒲^{しやうぶ} 言^{ことば} あやめの輿^{こし} 日^ひ あやめのこしとあやめの五日^{ごにち} 第^{だい}會^{かい}

あやめのつづ^{つづ} 天子^{てんし}氏^しはな^{はな}は^は出^で御^み 日^ひ あやめの机^{ついで} 五日^{ごにち} 典^{てん}業^{ぎやう}及^{およ}あやめの机^{ついで}

ふどりの日^ひ 五日^{ごにち} 右^{みぎ}を^をの^のる^る場^ば 日^ひ 完^{かん}務^む 日^ひ 涼^{すず}ぬ^ぬと^と日^ひ

茶^{ちや}玉^{ぎよ} 五日^{ごにち} さ^さら^らの^の玉^{ぎよ} 日^ひ 長^{なが}命^{いのち} 日^ひ 日^ひ 續^{つづ}命^{いのち} 日^ひ

五^ご彩^{さい}糸^{いと} 日^ひ 人^{ひと} 日^ひ 艾^{あゐ}人^{ひと} 日^ひ 蒲^か人^{ひと} 日^ひ

艾^{あゐ}虎^こ 日^ひ 粉^{こな} 日^ひ 水^{みづ} 日^ひ

白^{しろ}團^{だん} 日^ひ 梶^{かぢ} 日^ひ 赤^{あか} 日^ひ

競^{けい}渡^{わたり} 五日^{ごにち} 危^{あや}車^{ぐるま} 日^ひ 騎^か射^{しや} 日^ひ

馬^{うま}弓^{ゆみ} 日^ひ 五月^{ごご}鏡^{かがみ} 五日^{ごにち}

六月^{ろくがつ}の乾坤門^{こんけんもん}

み^みあ^あつ^つき^き 風^{かぜ}待^{まち}月^{つき} 日^ひ あ^あら^らの^の月^{つき} 日^ひ 暑^{あつ}夏^げ月^{つき}

氷^{こおり}室^{むろ} 日^ひ 青^{あお}嵐^{あらし} 日^ひ 風^{かぜ}薰^{かほ} 日^ひ 暑^{あつ}涼^{すず} 日^ひ

月^{つき}涼^{すず} 日^ひ 白^{しろ}雨^{あめ} 日^ひ 極^{ごく}暑^{あつ} 日^ひ あ^あら^らの^の日^ひ

炎^{えん} 日^ひ 日^ひ 盛^{さか} 日^ひ 三^{さん} 日^ひ 伏^ふ 日^ひ 温^{ぬる}風^{かぜ} 日^ひ

薄^{うす} 暑^{あつ} 日^ひ 雲^{くも}の^の家^か 日^ひ 涼^{すず} 日^ひ 網^{あみ}涼^{すず} 日^ひ

紅^{べに}の^の涼^{すず} 日^ひ 川^{かわ}原^{はら}す^す 日^ひ 日^ひ 日^ひ 泉^{いづみ}水^{みづ} 日^ひ

や^やり^り水^{みづ} 日^ひ 清^{きよ}水^{みづ}む^む 日^ひ 清^{きよ}あ^あら^らの^の日^ひ 日^ひ 清^{きよ}あ^あら^らの^の日^ひ

清水世く さしき 井戸者 弁さく

水合 弘花ひ 抱翁 竹奴人日

仲奴 簞たわら 公用干 虫干

夏引の系 嘉定十一日 嘉定縁日 掛香

藿乱 夏ふー 香藿かほ 懸つく

あくはふ 夏ふて 夏涼き 夏の別

夏より後 夏の限 夏ふて 秋と隣

秋をこ 秋と待 小暑の節 大暑の節

○植物之部毎日挿入也

蓮 白蓮 紅蓮 蓮れき紫

うき紫 水芙蓉みづあじ日 蓮の実 竹の皮とら

百日紅 檨なつめ 甜干あまご 玉あめ日

玉簪茶 きん茶 赤茶 茗花あまがは

夕顔 檨なつめ 玉さこの花 金さくらの花日

潔せつ花 風葉 とうの尾花 眼皮

鶯草 ほろの草 暮の花 楮かの花

紙とぎ草日 徐の花 蒲の穂 苧田

田草とぎ 菡い州 菱州 藍州

白麻川 麻川 麻 さらさら麻

茗苺の子 青番椒 青鬼灯 蘇の根

小角豆 青さくさ 藺 瓜

姫瓜 青菜瓜 白蕪天 菜瓜

ゆづ瓜 青瓜 わかごど 萩の花

時斗草 紫苺仁 日向葵 紫菀

林檎 子松 本耳瓜

○生類之部 花日姫よもの

移るまき者 玉ふり鶯 蟬のまき者 空蟬

蟬のゆづ 紗子蠅 火とり虫 其虫

金龜子 毛虫 蠟 糟

海月瓜 鈴つゝ 川将 持綱

縹 罽納 鷹野いんぼん 鷹野いんぼん

○夜食之部

氷餅 一日夏切茶 一夜酒 其酒

麻地酒 引飯 水の粉 砂糖水

苜水 水飯 干飯 心る

ころもん 仲眩 せむし 干瓜

新のしるす 糸を流 納豆仕込 新不化
 碧油餅 糞枓 枓漬 枓むき
 掛網をり

○神祇門

富士詣 一日ヨリ 九日 御曼糸 一日 六月念 四日 祇園念 七日
 ぎとん糸の名を頂の涼 五日 津橋糸 十日 芦の神樂 日
 熱田糸 十四日 竹生橋糸 十日 山王糸 十四日 巖橋糸 十五日
 相國寺藏法 十日 伊勢糸 十日 祇園條時糸 十五日 物多糸 十六日
 上野波法 十日 藤原糸 十日 あくと十日 橋立糸 十五日

又波法 十日 任右法 十日 任右火者 日 幸橋糸 十日
 糸を月能 十日 雨乞 又後 祇代
 川社 名義の後 法後川 其後
 あくこの後 又くく 茅の糺 又くく 茶
 糞 糞 其神糸 麻の糸流 小堀糸 神
 ○公事 故事門
 氷室流 日 氷のかりの日 氷水めと 日 後服を氷室を用いて
 氷室掬 日 氷室の雪 日 子載糸 氷室を穿 忘日 氷後 日
 氷室の雪 日 氷室の雪 日 子載糸 氷室を穿 忘日 氷後 日
 氷室の雪 日 氷室の雪 日 子載糸 氷室を穿 忘日 氷後 日

いしむくはし神の天を
 氷室の雪 日 氷室の雪 日 子載糸 氷室を穿 忘日 氷後 日

初七

年以成之... 解... 神...

解... 神... 廿日

雷の陣

雷の... 大...

雷... 廿日... 神...

七月 乾坤門

女... 女帝... 葉月

秋... 秋... 秋...

初... 七夕... 星...

二... 星... 牛... 星...

織... 女... 星... 男...

女... 星... 七夕...

董... 百... 糸... 女...

花... 河... 秋... 夫...

銀... 星... 河... 橋...

年... 星... 途... 橋...

星... 星... 河... 橋...

庭... 七... 箇... 橋...

観... 七... 文... 橋...

生糸いそと 穂十日

津いと入十六日

砂い畧世

花火

稲い書ち

扇あとく

虫あ拾あ家

花火

稲い書ち

稲いの反

二百十日

△お撲

△辻いまちん

△秋風

△律いのふく

△律いの風

△立田い船

△香

△白香

△ういと香

△神いの香

△香

△香いの海

△きいり雨

△勇いに入

△新い温

△子秋い祭

△田いの房

△秋いの文

立秋いの節

處い畧いの節

○植物之部

花い日い婦い入いりい

梔いの紫い

芋いの香い

一葉

一葉いふいふ

桐

楸い

楸い

喜い楓

楓

楸い

柳い教い家

△萩

系い萩

△ふいといと

△萩い乃い海

△といといの萩

麻い帝い州

△ぬいはい名い州

茶

あいらいき

白い茶

友いといろいま

茶い

桔い梗

きらいりい

日い頼い桐い花

女い帝い花

茶いのい花

かいといくい

日い秋い海い棠

仙い翁い花

紅い梅い茶

観い音い茶

云い羽い州

茶い師い草

紫い切い州

鳳仙花	益母草	めんどう草	日野菊
旋覆花	やいと花	うろんの花	曼珠沙花
常山花	槐の花	木槿	めうがれ花
蒲萄	るびんぐ	日松の實	不けの實
濃梅	ふつ免	薤豆	垣ま免
夕魚の實	ま瓢漿	西瓜	蓮の實漿
あまの徳	稻の花	稻漿の雲	稻漿
富州の花	早稻	室のふくせ	唐ゴロシ
菟麻子	そらごぬ	日忍豆	南瓜

かぶら	日上	△花	△えはをど	△さくれ萩
△萩の上風	△萩	△鶯の羽	△二ふさぐた	
△志のすね	△志のぶ草	△藜	△芭蕉	
△赤荻草	△花壇	△草の花	△時の花	
△鶯の花	△丁来紅	△まけいとう	△芽萱	
△とすひ茶	△大子草	△鬼炸	△若たごこ	
△るらば	△冬瓜	△薑	△ごやう引	
△芋	△糸芋	△芋莖	△琉球芋	
△薯蕷	△平芋	△薯蓣子	△新綿	

△本綿とる △後の松 △とくぬく

○生類之部 日考の部

初麩 舊れ樹虫 舊め山列 舊のふ入

初鳥狩 初鳥狩 舊お ことくこと

つらととあ虫 蜻蛉 やんま 日 赤とんがう

思とんがう 秋は虫 蠅 蠅

くさぎの虫 秋の蝶 秋の蚊 田の虫送る

いふら 蠅 松虫 終り

響し 追ひ虫 竈の 塔

假滅 はとく 日 蟻 蟻 いがきり日

この虫場 我う虫 日 又とんと場 藤後虫の若

垣掛 虫合 むし 虫合

空蝶 麻 麻笛 麻狩

△小男麻 △のせぎ △すぐふ場 △麻の葉

△とみら香 △小鳥 △蠅 △昆蟲

△小集 △雀 絨 △細掛 舊 △夏鳥

△あう舊 △野され舊 △接鳥 △まら鳥

△鴨 △鴨の羽 川系鴨 △うむと

△かど志丸 △百羽うき △鶉 △斤らうら

△うぐろ翁 △うろく細 △百能者 △鶉の茶茎

△鶉おとく △鶉 △川ととた △小魚

△たせ約 △鶉 △九万起 △小さらし

△ひ餅 △餅とまろ △小いし △いし

△鶉梁 △鶉吹 △梨山子 △名おとく

△あうこ △尿水 △弘板 △鶉おとく

○夜食之部

蓮の飯 焼米 刺鱈 冷麦

切麦 おの麦 めろ麦 胡菜の湯

○神 祝 門

水燈のいそ水六日 日社権様七 池の坊喜七 日 本願寺九

本願寺七 送の果入 久珠舎八 日 六乃糸九

迎ひ日 送 日 寺燈核賣 日 清水千日日 信 日 西茶日

盆會 施録日 鬼 盆供 甚これ日 盆賣

高灯籠 揚日 とうろ 灯籠 きつ日 こ

近日 ひ火 聖日 契日 糸 聖日 契日 柳 たま日 は日 ころ

星月非月 名月 望月 望月の影

夕暮の月 夕月の月 夕人の月 新月

十又秋 三又秋 芋名月 月足

良秋 待首 小屋月 日いとよい 十又秋

△月 △三日月 △月の弓 △弦月

△望月 △月さやう △月の桂 △挂紙

△月の初 △夕月秋 △夕月日 非月 △月の友

△月の至 △盃の光 △盃吐紙 △照ル月次

△上弦 △下弦 △有明 △月の兔

△月の舟 △月の細 △月の嵐 △月の眉

△立待 十七秋 △居待 十八秋 △伏待 十九秋 △廿日亥中

△廿三秋 玉兔 △玉蟾 △玉帯 嫁

△嫁嫁 △掛男 △月の香 △月のおね

△月の氷 月の名氷は夏秋をともし月かしくけり

雷夜をきむ 水初めのあ 日 白雲の帯 秋分の帯

竹のまま 秋のこれ 著秋ふあすは秋の又るまの

○桂おく部

初のこら 蔭紅紫 名の木敷子 秋野花

樹の花	秋芙蓉	栴檀の花	漆の花
石梅	浪香の葉	牡丹の根分	芍薬の分根
縷紅	照荷	檜特の花	金剛草
こぼつなき	あろいの心	花むくま	馬蹄
紫菀	ねあのみと草	あま草	まら花
月草	花燈	宇治の花茎	落の穂
尾花	鏡鏡	あやと草	かき
淡木綿花	とろくね花	燧中花	藍の花
ふゆいの花	水葱	伏栴枝	薺の花

たての穂	駒蓼花	蕎麦の花	木賊刈
芦乃花	芦花穂	蕎麦花	苦参引
胡荽花	茶垢	軒前子	萱刈
萱ぬく	萱うね	新州安	茴香の実
薺支	薺とい	通草	玉葱
玉つさ	後ふく	薺の実	薺
茸狩	木の子	菌	トコ
初茸	松茸	氣茸	黒皮茸
あろけ	平とけ	紅とけ	柳とけ

折とけ 岩とけ 升とけ 天狗草

いくら ぶらとけ 松皮 秋の田

田とげく 中縮 田外 縮外

落穂 縮く 縮米 縮垣

縮干 縮しりろ 八束穂 毛足

縮身 穂掛 新く 小田守

南と守 胡ヶ刈 粟刈 穰刈

玉と刈 蜀黍 玉蜀黍 かしき

菜種まき 大こん藪 小藪 つまみ菜

肩引菜 中ぬき大根 氷引の花 かり菜

葛の根焼 草のまづく茶は実

○生類之部 在日地よぬ

厂 細厂 がん びらごみ

獲はどろ 藪 蕨 藪 藪

船倉渡 小倉りる 倉倉 藪

小凌倉 山雀 四十雀 五十く

翠雀 鴨 鴨 夾茶

翠雀 りとろ 鴨 非羽翠

遊鶴

嘸木鳥

菊

豆鳥

奴あつら

心く鳥

轉マシ

鶴トビ

鶴トビ

ス冬元

鶴トビ

鶴トビ

鶴トビ

似に茄子

江か銚す

鮭さけ

鴨鴨

左刀魚

唐から鮎

さび鮎

鰻うなぎ穴入

とり梁

くどれ梁

◎夜食之部 五日場にお

新米

今と一米

新酒

中酒

古酒

とろと

礫いり礫いり瀝いり

能いり

三六

礎

志ころお

構衣

日

衣お 日

○神釈門

三村三村祭祭

堺天社祭

水聖祭

白白鷺鷺園園祭祭

敷敷賀賀祭祭

八幡祭

石石津津水水祭祭 宇宇佐佐祭祭 萩萩祭祭

放生放生會會

いけりいけりを放を放つ日

聖聖口口名名仏仏日

萩萩祭祭 萩萩祭祭

市市聖聖祭祭

葉葉名名祭祭

宰宰府府祭祭

西西院院祭祭

菩菩薩薩祭祭

後後のいげん

冬冬浦浦祭祭

長門

◎公事故多門

司司口口

十日

六位六位上上の儀儀祭祭 駢駢進進

十六日

約約率率 日

九月の節 日 秋の節 日 秋の節 日 秋の節 日
秋の節 日 秋の節 日 秋の節 日 秋の節 日
秋の節 日 秋の節 日 秋の節 日 秋の節 日
秋の節 日 秋の節 日 秋の節 日 秋の節 日

九月 乾坤門

菊月	長月	とみち月	福光月
木深月	小田刈月	梢の秋	香陽九日
菊の節	栗の節	後の雛	秋色
山樵	後の名月	後の月	粟名月
豆名月	二秋月	月の名秋	十三夜
秋の節	秋の節	秋の節	秋の節

九月 秋ぬき 秋の淺 秋を惜
秋の根 秋の別 秋の秋
秋の名秋 秋より後 秋の色 冬をき
冬と隣 冬と待 室の節 秋の節

○植物之部 五日 十日

菊	秋の節	秋の節
十日菊	菊	きく合
菊	菊	百菊
佛甲茶	佛甲茶	佛甲茶
破芭蕉	破芭蕉	破芭蕉

豆引

小豆引

豆の花

豆ごり引

豆

そら豆種家 喰田

豆種

ひつら田

竹の實

枯尾花

豆散家

草の孫

折燈の香

枯の香

豆種

草の孫

野山の孫

紅紫

豆種

撫りもち

柿ともち

柿ともち

柿ともち

係ともち

白膠木紅紫

柿ともち

柿ともち

合歡紅紫

柿ともち

柿ともち

柿ともち

とらふく敷

紅紫のりちる

くくしれ実

柿ともち

たもの実

西海子

菩提子

柿の実

忍櫛の実

樓比実

せんごん比実

柿の実

楓袖比実

楼比実

柿の実

栗

流くま

志むくま

うぐくま

いづくま

榛

櫛

推

まてをまひ

落推

推捨小

穀粟

櫛の実

新櫛

新胡松

新松子

菓實

根

仁子柑

蜜柑

金柑

九年母

柚

けんちき

香州櫛

柑子

橙

柑殼

馬梨

菓子

木菓子

山菓子

青梨

水菓子

色久ぬ松

櫛

水菓子

色樹

木樹櫛

青樹

鳥樹

熟樹

落し水

○生類之部

長日櫛

紅葉

尾櫛の鴨

赤ぬむ席

細代打

雀蛤

今月新穀をなす

○衣食之部

菊汁酒 九日

桑根

わくめ酒

抽味酒

娘さう酒

やと桑

新芽麦

とじ餅

餅豆漬

九日小袖

菊重の衣

紅葉衣

○神秋門

樹のまね樸

泉涌吉野

鞍馬桑

芝布桑

生玉桑

碓氷桑

河番文桑

又條天祥桑

赤の文桑

下巻羽桑

左巻桑

牛桑

代官お撲去

宝の市

井の市

白川桑

代官の候

善仏舎

神田桑

石倉桑

小倉系 十月 粟田口系 十月 一三系 十月 くらん系 十月
十月 困法系 十月 穴藏系 十月 呉波系 十月
十月 八幡系 十月 安和系 十月 後戒系 十月
 天王寺灌漑 十月 山に系 十月 上流波系 十月 夜子系 十月
 淀系 十月 麻谷系 十月 逆髪系 十月 本幡系 十月
十月 小倉系 十月 付村系 十月 鳴瀬系 十月
 御王系 十月 任者系 十月 桂川系 十月 此の系 十月
 伊勢系 十月

○と奉故る門

早

市灯 三月 二月 二月 不堪回れ奏 四月 花田の田の換を
三月 菊の宴 九月 葉黄の宴 十月 天子有る 十月 葉黄の宴 十月

十月 ○乾坤門

小を系 十月 初時辰 十月 志ぶき 十月 村時辰 十月
 下元 十月 初時辰 十月 夕時辰 十月 片時辰 十月
 初霜 十月 初氷 十月 初氷解る 十月
 雪 十月 冬 十月 冬 十月

ほろまきく 茎引 大根引 △胡蘆引

△ら菜 茎大えん △葱 △葱

△福ぶり日 室候 室の枿 △水仙

△室菊 △枯柳 △枯柳 △くくろ燈

○生類之部 毎日種ふもの

考の子啼 氷魚 生海産 ところご

さんと 鞆 △大巻

△箸巻 △巻狩 △巻道 △巻のた

△狩場のまぬ △かりむの巻 △ぬす巻 △追巻狩

△巻さげび △巻まど巻 △巻れらくさ △巻

△鴨 △美鴨 △沈巻 △さくら巻

△あぢれ巻 △小鴨 △羽巻 △鴨巻

△水巻 △浮巻 △うき巻 △本巻

△千巻 △ゆる子巻 △川子巻 △浦巻

△磯巻 △夕巻 △淡巻 △磯巻

△小萩巻 △牡蛎 △うら巻 △海豚

△巻 △初巻 △くしら巻 △くしら巻

△巻 △あし巻 △網代巻 △網代巻

△山本漬 △作等 △秋真引

○夜食之部

いこの縁 菜の口切 湯籠袋 ちりつと

△蒸漬 △切干 △干菜粉 △塩鰯

△河豚汁 △細豆汁 △炊焼 △貝焼

△鰯やき △大根もち △茗ぬる炊 △紙衣

△綿衣 △綿あじ △頭巾 △九づまん

△南双巾 △衾 △焚ぬさま △紙子飯

△古ゆらぎ △北号のきぎぬ △蒲籠

○神釋門

神送し 神の旅 神のまま 遠六忌

十枚 真福寺はなま 食品はなま 維六忌

△今縁 東後寺はなま 大社神ま 中集 神集

△えびと傳 誓言文拂 かつら紙 梅の尻中袋

△猪首 神迎

○公事故事門

△孟冬の旬 天子まゝ 出陣 冬のおまじり

△おまじり 浪敷 日 四巻 家より 紙とちり 羽駒

射場始

五日 弓場始をもちて
うねとをもちたり

秋菊の宴

五日 群臣の宴
を射場始にちか

懸擲と喰

一日 ちうに新せのん
を喰と喰ふんこと

秋墳

一日 ちうに秋のん
は日墳にちか

十一月

○乾坤門

初月

初月

初月

初月

子灯心

申子

曆うて

變盛

親見世

初涼香

涼香

香仏

香女

香やぶ

香やぶ

香やぶ

香車

櫛

香櫛

つるぬき

香櫛

こころ

凍

鏡とゆり

香家鏡

鏡氷る

香氷る

氷柱

香氷

△氷

△薄氷

△厚氷

△氷面鏡

人香の節

冬至の節

○植物之部

五日 香ふよ

冬玉松

新生香

冬玉松

朽草

ちうと茶

○茶は生れしとちう茶

○生類之部

杜史魚

鯉

杜史魚

ぬくめ魚

○夜食之部

わくま酒 みぞま酒 たまご酒 せうご酒

新千四つ 新千菜 袴着 かげさ初

○神歌門

お学ま系 上卯 宗像系 日 吹草系 八日 子ま山 甲子

之流河の市 中酉 乃徳神 十六日 日吉時系 中申 小系 トノ西

鶴ま山 廿二日 空也忌 十二日 新とん 九日 大所禊 九日

小系 廿七日 掛毛 日 春日後日結 廿八日 新忌禊 廿八日

お仏事 日 おまも月 日 宇賀系 日 山祓系 廿日

祓乐 小忌夜 山盛の袖 日吉のつぐ

日蔭の系 祓乐祝いあ 大お湯 小さくら

庭燎 吹くも祝い 文どい 早うこ

星御 おれ 火焼 おれ 里祓乐

○公事故事門

麻回巻 一日天子の誓と 五節 中ノ五 八せりの舞大か

帳巻の試 又その時天子帳巻より出陣おま衣こころぬきと

持の仗 おこのく籠子とたまり 童女お説 昨日後涼あまき童女

法吉鬼系 中ノ寅人此意を中し 新蒙今 中ノ卯 こころに御徳と祓

冬ふゆの節ふし會あひまひ 辰たつみ 今いまくくののりりよよをを休やすむむととままららううととせせむむいいままふふままとと

十二月の乾坤門

壬子初日 燦拂はげ 燦はげととささ 壬にのの入い

乙子初日 燦拂はげ 燦はげととささ 壬にのの入い

壬にのの入い 声こゑをを入い 壬にのの入い 正ただ月つきのの始はじ

獵う日ひ 辰たつみのの日ひ 壬にのの入い 除とけけ 除とけけ

寶舟たからぶね 纈せきのの札しるし 壬にのの入い 辰たつみ拂はら

厄やくちちととくく 壬にのの入い 壬にのの入い 壬にのの入い

壬にのの入い 壬にのの入い 小こ晒ひ日ひ 辰たつみのの入い

壬にのの入い 辰たつみのの入い 曆れきのの末すえ 古ふるくくよよとと

壬にのの入い 節ふし季き 大おほにに十じゅう日にち 掛かくくととくく

掛かくくととくく 又また報ほう辰ちん 壬にのの入い ととくくのの尾び ゆゆくくととくく

くくととくく 壬にのの入い 壬にのの入い いいぬぬるる壬に 壬にのの終はら

ととくく乃の季き 壬にのの入い 壬にのの入い 苦くるのの冬ふゆ 年としをを始はじむ

壬にのの入い 壬にのの入い ととくくのの果は 壬にのの入い 壬にのの入い 壬にのの入い

壬にのの入い 壬にのの入い 壬にのの入い 壬にのの入い 壬にのの入い

○ 独ひとり抱かかへへ部ぶ 日ひのの入い部ぶ

早杓 穰杓 之杓 早咲栞

之竹の子 孟宗竹 栞賣 栞さそ

門松賣 門松いとまじ

○生類之部

箕和田狸 八目鯉とろ 鵜初て巢と喰入月全

○衣食之部

乙子の飯日 麴味噌 ちり子粥 豆腐氷り守

ちり氷と茶喰 ちり子酒 餅橋

茶洗 ちり花 餅さそ 豆打

豆ちやと 傷の飯りぞ 夜配 ちりりり 餅賣

○神秋門

花園忌と 宮傍と 権取と 大連と 宮忌と 秋と 縁と 忌と

和布と 神と 五糸と 天と 神と 詣と をと けと らと 賣と 吉田と 又と 後と

大原と ぞと 糸と ぞと 著と けと 玉と 糸と 札と 紙と 星と 仏と 賣と

之と 垢と 離と 之と 急と 仏と 年と 終と 年と 紙と 詣と

○公事故事門

忌火の 飯一 湯新 飯ト 親今 念念 丁日 今も 七月 一日

佛名 十五日 仁壽 庵と 之と 四川 け終 同上 仏名 の時 乃終 之と

虎の巻上

トキ

虎の巻のけりくきと
とあうてかくとたり

存あ使

十段、基、下、幣、帛と
あうたきふとたり

内侍の神楽
先天子の御舞のりき
内侍ありとたり

温糲粥

八日

備八日

其年中にもふ山ともあり
七日法言に信仏舎と
七宝又味のかゆをか
くろくそいんそく
の備八日のと云

追籠

川日

鬼やらん

日

あやう

日
用は四ツあま鬼面と
あうたきふとたり

四季初春終

○雑之詞之部

津事

梅れえ

初風

梅川

柳の浦

柳の水

美蔬

萱生

美草

秋苗

秋壺

梨壺

梨の木

桜の木

花紅たふ

四六

松の縁

林

棕

拍

杉

梧

葛

薄

菖

藻

菖

芦

菜畑

菜種

淡茅

村雨

埤

電

雷

早

織の月
公の月

干汐

秋扇

布子

布

綿

紗お

綿くし

美綿

梅干

梅漆

榧

胡桃

大角豆

鴨

鴨

鴨の巢

大鳥の巢

山鳥

鴨のね盛
鴨

鴨とり

鴨神

鴨ね盛

壯鷲 翹 協の巢 玉虫 虫

鮫 鯨 鯨 鯨 鯨

礼扇 軍配袋 薙代 炭消 薙代

瓢箪 戸の鳴子 森冷 病の汗 羊脂

茶巾鉢 茶飯 干菜 干蕨 玉火豆

こつと豆 葛餅 蕨餅 花の石 花田之

經帷子 壯托ひ 頭の雪 眉の霜 檜笠

柳指 浪の花 灯の花 花ぬき 花下子

右の分新也... せ記と余ハ准一ト云々也

○時令及名之部

春 靑帝 東君 大皞 陽和 孟暉

夏 赤帝 朱明 炎帝 火神 炎節

秋 白藏 同琴 金井 木杵 素商

冬 湯藏 南至 上玄 冰雲 玄英

正月 孟春 發春 王春 上春 初陽

大族 規春 條風 初節 歲首 新曆

發歲 端正 芳歲 良節 青陽 芳時

元日 正朝 三朔 元旦 初正 陔旦

凌節	三節	載陽	三月	夾鐘	二月	元正	春風	聖節
上巳	五陽	三陽	四陽	首正	仲春	正日	上元	上日
天辰	春抄	春抄	春抄	三微	春抄	元辰	二始	穀日
上辰	花飛	春抄	中抄	元會	繁節	芳辰	穀日	穀日
時和	春末	春抄	春分	履端	拾翠	昌辰	穀日	穀日
年芳	嘉月	嘉月	金月	天端	中陽	寅正	穀日	穀日

五十一

七月	六月	端午	五日	敦悌	五月	青和	四月
早秋	殘夏	佳辰	重午	出種	仲夏	六陽	首夏
首秋	元陽	蒲期	午節	夏半	南訛	乾極	仲夏
上秋	火老	熱艾	蒲節	午節	夏五	槐夏	孟夏
孟秋	綿涼	朱索	艾節	熟月	盛甚	秋極	早夏
菡涼	林潼	朱符	天中	鼻月	炎夏	極溽	新夏

蘭秋 熟尾 夷別 齋齋 蘭月 寧月

八月 深秋 清秋 秋高 南呂 中商

燕客 四陰 秋中 豆雨 松月 長月

九月 季秋 菊秋 晚秋 柳秋 孟冬

季高 五陰 殘秋 露辰 素秋 玄月

九日 重九 重陽 菊節 菊天 九九

芙蓉 萸節 佩萸 佩菜 菊系 衣被

十月 小春 懸壺 梨正 去律 薄冬

孟冬 初冬 上冬 玄冬 正陰 吉月

十月 仲冬 墨記 霜節 會星 相天

冬半 一陽 新陽 亞歲 暢月 復月

十月 季冬 大呂 雉雉 哂張 窮陰

抄冬 二陽 暮冬 調年 余月 獵月

歲暮 歲季 歲末 年終 守歲 年尾

分歲 別歲 歲晚 卒歲 回歲 殘獵

除獵 歲晏 歲竟 窮記 餘冬 殺節

急系 窮律 窮稔 閉藏 閉塞

○ 懷紙之白法

百韻

表八句 七句月 裏十四 九句月

二表十四 十句月 二裏十四 十句月

三三句月 十句月 三三句月 十句月

各語三句 十句月 同六句 七句月

右四折合百句 花月七ツ

五十韻

百韻の二三ノ折

歌仙

表六句 七句月 裏十二 十句月

各語三句 十句月 同裏六句 五句月

右二折合二十六句 月七ツ

源氏

表六句 七句月 裏十二 十句月

三三句月 十句月 二三句月 七句月

三三句月 十句月 二三句月 五句月

四十四

右二折又下句 花月七ツ

茶字

右三折合六十句 月七ツ

表八句 七句月 裏十四 十句月

表八句 七句月 裏十二 十句月

二多十四 十句月 二六句 七句月

二多十二 十句月 二三句月 七句月

右二折合四十四句 月七ツ

三三句月 十句月 同三句月 七句月

七十二候

表八句 七句月 裏十四 十句月

右三折合八十句 月七ツ

三三句月 十句月 三三句月 十句月

易

三ノ折合七十月 二百八句 七百七

表八句 七百七 裏十二 七百七

右二折合七十月 七百七

二ノ折合七十月 七百七 二ノ折合七十月 七百七

長歌

多條五十月 同ウガ 七百七

表八句 七百七 裏十六 七百七

右六十句 七百七 又二設百韻ノ之ノ表ニ用

右二折合七十月 同ウガ 七百七

右二折合七十月 七百七

首尾吟

短歌

表八句 七百七 裏八句 七百七

表四句 七百七 裏八句 七百七

歌仙首尾

多條五十月 同ウガ 七百七

表六句 七百七 裏八句 七百七

右二折合七十月 七百七

表白

二十八宿

表六句 七百七

表六句 七百七 裏八句 七百七

十句之法

二ノ折合七十月 二ノ折合七十月 七百七

百負十卷也 七百七

右二折合七十月 七百七

春三句 夏三句 秋三句 冬三句

古式百韻

表十句 七百七

又十句 七百七

今ノ百負と同一

又十句 七百七

名物表裏の 日ハ七の去

花ハ八の去 面ハ七の去
古式百負の 日ハ七の去
の表の 義百負 或規矩と
して可なり 義ハ七の去
時ぬむ 七の去

續千百

古来の 義百負 或規矩と
有負の 義百負 或規矩と
おかしき 義百負 或規矩と
續二百負 三百負 續千百 或規矩と
とす人 義百負 或規矩と
とす人 義百負 或規矩と

句教去嫌之法

春 日季五の去
秋 日季五の去

とるハ又白をてつてくじとる二の去を捨て
とるの字も又白をて
とるハ又白をてつてくじとる二の去を捨て
秋の字も又白をて
かきつて月ととる

夏 日季五の去

とるハ又白をてつてくじとる二の去を捨て
とるの字も又白をて
とるハ又白をてつてくじとる二の去を捨て
秋の字も又白をて
かきつて月ととる

冬 日季五の去

夏は日一

秋 日季五の去

とるハ又白をてつてくじとる二の去を捨て
とるの字も又白をて
とるハ又白をてつてくじとる二の去を捨て
秋の字も又白をて
かきつて月ととる

春 日季五の去

夏 日季五の去

無常 二の去

とるハ又白をてつてくじとる二の去を捨て
とるの字も又白をて
とるハ又白をてつてくじとる二の去を捨て
秋の字も又白をて
かきつて月ととる

雨部 三白去

迷懐 三白去

人倫 二白去

居不 三白去

衣類 三白去

食類 二白去

植物 三白去

一白と持てもより二白より多く世に
・秋紙も秋紙も二白去べし

一白と持てもより二白より多く世に
・懐旧も同じ

二白と持てもより二白より多く世に
・人の字三白去べし

一白と持てもより二白より多く世に

一白と持てもより二白より多く世に
・衣の字五白去

一白と持てもより二白より多く世に
・食神と食神と入る白去食神と食神

一白と持てもより二白より多く世に
・本と本草と神の類同類ハ三白去

一白と持てもより二白より多く世に

生類 三白去

秋分 三白去

時分

山類 三白去

水邊 三白去

・東と州界と舟をくくをより多く世に
二白去
・竹と竹ハ五白去
・松と松ハ
二白去
・高つぬ柱也ハ五白去
・も二白去
・山吹物把秋の類より
一白と持てもより二白より多く世に
・鳥と鳥虫と虫の類同類ハ三白去
・鳥と虫魚と鳥より多く世に
二白去

一白と持てもより二白より多く世に
・秋分も秋分秋の類より多く世に

一白と持てもより二白より多く世に
・秋分も秋分秋の類より多く世に

一白と持てもより二白より多く世に
・山の字三白去

一白と持てもより二白より多く世に
・水の字三白去

天象 二句去

彛物 二句去

浮物 二句去

族所 三句去

國名 二句去

一、句を捨ててもよい。二、句より多くせむ。

・月日星をくくつりてハ二句去之

・月と月ハおろ面をくくハ五句去。日と日ハ二句去。星ハ只一句よりせむ余ハ准之

一、句を捨ててもよい。二、句より多くせむ。

・雪雨をくくおろりて二句去之

・雨と雨ハおろ去。雪もつらくく入ておろ去。

・一、句を捨ててもよい。二、句より多くせむ。

・一、句を捨ててもよい。二、句より多くせむ。

名所 二句去

走所 二句去

器財 二句去

書所 二句去

一、句を捨ててもよい。二、句より多くせむ。

一、句を捨ててもよい。二、句より多くせむ。

一、句を捨ててもよい。二、句より多くせむ。

一、句を捨ててもよい。二、句より多くせむ。

一、句を捨ててもよい。二、句より多くせむ。

一、句を捨ててもよい。二、句より多くせむ。

火辨 風辨 均体亦在曰乃

。切字之奉

哉 毛畜 たり せり こそ あり たり けき
けあ らん らし らあ 又 何 幾 さぞ
や っ つ ん か あり たま たら
たが いざ いざ いま いま いう とい ぐく いう
い ち り り いう いう ぎま んど まそ する せ

。下知の切字

悉 け せて ぬ へ め き なる よ そ

。三世の——之奉

現在 け——切字 過去の——不切 未来 け——切字
静 け 静 け 如此 きた 字 小 通 小 せ 現在 け——と云
き 静 け 静 け 如此 けた 字 小 通 小 せ 過去 け——と云
ぬ け け——如此 現在 過去 せ け する せ 未来 け——と云
。年ぬ 不 け ぬ 之奉

年ぬ と云ハ 咲 け ぬ ぬ り ぬ け け け ぬ

能席初心年引

一唯六 會席は人数数句より二句つ詠辨は美あるを云
 再遍六 右一唯の人教又一句は附は六すを云
 聯六 妻秋をく八三句友をく八三句つ續くと云
 求食六 一人ふく二句三句續て附るを云
 端作六 懐紙の初ノ不能諧之連歌と美を云
 乱吟六 句前かまひに附ると云又か勝とも云
 一折六 懐紙一枚を一折せり
 平句六 及句服第三の介を何しも平句と云

秀逸六 ことばをてよき句を云

逢吟六 句作のおえきたと云

數全六 句作のせんはく一色くつるを云

入六 附句差合ありくも句と止らると云

端廻六 折越、心乃もどる句を云

添削六 宗通、点を七を云

即点六 今席のく即点は点を云

排言六 宗通より差合を答夫加くると云

加筆六 宗通より句と並し失添くると云

廣美ホウビ上宗近ソウキンの句を不考フコウるを云

筆句ヒツク上執筆シツペンの句を畧リョクしく云

卷頭クワン上百韻ヒャクイン秋仙アキセンの句を及およぶ句を云

卷抽クワン上おぬおぬくあげ句を云

無題ムツイ上かたかたく出いく無題ムツイを云

系物ケイモノ上花郭ハナカク云月雪紅葉ツキユキベニハを又々之景物ケイモノと云

他季タキ花ハナ上其その秋冬アキフユの正花マサハナの句を他の季タキと云

他季タキ月ツキ上其その夏冬ナツフユ乃月なりつきを他の季タキと云

似物ニモノ上花ハナの雪月ユキツキの雪蟬ユキゼミ其雨眉そのアメの霜しも木きと云

五イッ服フク上相對附ソウタイツク亦添附オキソフ違附チガフ心附ココロツク頃ころ苗なえうを云

心ココロ辨ハ上平附ヘイツク四年附シネンツク風情附フウセイツク詞附シツク心附ココロツク違附チガフ

對附埋附等ツクイツクツクの附ツクくを云

親句オヤク疎句ソウク上ハ縁縁流流れれ續つるるを親句オヤク又續つるるを疎句ソウクと云

一イツ句ク一直イツク上ハ千句チク此法式ココノホウシキの句を附ツクるるは合あはさはは

連つして又出いるる小控コウ合あはさははは句クハ世よぬ法ほ也

出合デアヒ遊ユ上ハ子こ句ク此法式ココノホウシキの句クおののをを又またををと云

せす出合デアヒの句クとと分わるる法ほなり

諸シロ礼レ停止テイジ上ハ同どうくく千句チク乃なり席せきの法式ココノホウシキなり

。俳諧流行變風之語

古風

天文の頃巖洲荒木田守武といふ人俳諧を

長しと獨吟千句世中百首木の書を著す
後世俳道乃より祖とす

應安承應の比洛に松永貞徳俳諧宗匠の
免後を多かり故に流乃祖と仰く守武を

貞翁時代と古風之稱と家書波川池
糟柿車集の等

檀林風

延享天和の頃大坂宗因古風を破して二風

弊を起すと江戸檀林軒松意といふ者宗因
を東武が招き宗因風を弘む是を檀林
風と稱す家書妙室二十歌仙江戸八百負ホ

大坂檀林

同時西落由平水浪花に在り宗因風を弘む



大坂檀林と稱す洛外八歌本寺より政合弊一

て三都より檀林風大に流行るる後來山

倉田伊丹に鬼也ホより當時乃正風と成る

正風弊

貞享元禄の頃芭蕉翁一風流を起さる此

時三都に檀林悉く滅して天下の俳諧

蕉風亦一流す是不易正風体なり一
流乃書表篆表炭表也

晒落風

室永此頃其角正風体を一變す号を
云やま風と云家書焦尾琴類棋子ホ

化名風

同時不角吳風を真立すけこ風と云
志吳体之家書こころせ端あ後世を著す

比喩

享保の始沾例比喩能階を好む大に世小
仍るく家書江戸代同續也

蕉風

同晚年此頃宗瑞蓮之咫尺素丸長水

乃五士吳体の俳諧流布を歎き正風
再真此書を著者又五色墨と号す
是より東都の能階正風を飯す
同時終く於京師其角を愛風として
汎を弘く當時点京の清肉を用ひ奉ハ
此翁を控書と云上方一風流家也
延享此頃其角四世湖十をたし免京
武宗近二十人獨吟集を著す延享
二十款仙と号す江戸當時点京風也

。色紙短冊之寸法

大色紙

横六寸六分
竖五寸八分

又

横六寸
竖六寸八分

大短冊

横一尺一寸
竖一寸八分

又

横九寸
竖九寸八分

小色紙

横三寸六分
竖二寸八分

小短冊

横六寸六分
竖九分

右寸法貞徳翁天水より出之

